

表1-1 JPIC急性中毒症例の収集総症例数および血中濃度分析症例数

カテゴリー名	分類名	総症例数	血中濃度 分析症例数	
1. 家庭用品	乾燥剤・鮮度保持剤	271		
	化粧品	616	5	
	殺虫剤(ピレスロイド含有)	178		
	" (有機塩素含有)	94		
	" (有機リン含有)	175	2	
	" (ホウ酸含有)	126	3	
	" (その他)	153		
	洗剤 (衣料・食器・住居用)	423	1	
	" (トイレ用)	120	1	
	漂白剤・その他の洗剤	336		
	タバコ	113	2	
	電池	108	1	
	文具類	125	1	
	防虫剤	131	1	
	殺鼠剤	78		
	肥料・園芸用品	130		
	玩具・忌避剤・消火剤	245		
	消臭剤・脱臭剤	292		
	体温計・温度計	56	5	
	防水スプレー	223		
	その他の家庭用品(使い捨てカイロ、保冷剤を含む)	364	2	
合計	4357	24		
2. 医療用医薬品	中枢神経系用薬(麻酔剤・催眠鎮静剤)	312	23	
	" (抗てんかん剤)	65	36	
	" (解熱鎮痛消炎剤)	136	8	
	" (興奮薬・覚醒剤)	38		
	" (抗パーキンソン剤)	11		
	" (抗うつ薬)	262	19	
	" (精神神経用剤)	220	22	
	" (総合感冒剤)	18		
	" (筋弛緩薬)	7	2	
	末梢神経系用薬	81	7	
	感覚器官用薬(眼・耳鼻科用剤・鎮うん剤)	45		
	循環器官用薬	188	15	
	呼吸器官用薬	173	40	
	消化器官用薬	82	9	
	ホルモン剤・泌尿生殖器官用薬	85	3	
	外皮用薬	208	5	
	歯科口腔用剤・ビタミン剤・代謝性製剤	95	8	
	その他	264	10	
	合計	2290	207	
	3. 一般用医薬品	中枢神経系用薬(催眠鎮静薬)	115	3
		" (解熱鎮痛薬・眠気防止薬)	324	60
" (感冒薬)		310	73	
" (小児鎮痛薬)		14		
末梢神経系用薬(鎮けい剤)		2		
感覚器官用薬(眼科用・耳鼻科用剤)		107	4	
" (鎮うん剤)		66	2	
循環器官用薬		22		
呼吸器官用薬		120		
消化器官用薬		25		
泌尿生殖器官用薬		1		
外皮用薬		323	2	
歯科口腔用薬		6		
ビタミン剤・アレルギー用薬・漢方生薬製剤		94	5	
その他		235	1	
合計		1764	150	

表1-2 JPIC急性中毒症例の収集総症例数および血中濃度分析症例数

カテゴリー名	分類名	総症例数	血中濃度 分析症例数	
4. 農薬用品	殺菌剤	188	4	
	殺虫剤(有機リン系)	486	10	
	" (カーバメート系)	80	1	
	" (カルタップ剤)	2		
	" (クロロピクリン剤)	52		
	" (臭化メチル剤)	18		
	" (D-D剤)	2		
	" (ピレスロイド系)	39		
	" (有機塩素系)	31		
	" (その他)	126	2	
	除草剤(PCP)	2		
	" (尿素系)	8		
	" (塩素酸塩・次亜塩素酸塩)	20		
	" (ジクワット剤)	11	2	
	" (パラコート剤)	59	15	
	" (フェノキシ剤)	37	1	
	" (カーバメート剤)	1		
	" (トリアジン系)	13	1	
	" (グリホサート)	87		
	" (グルホシネート)	149	9	
	" (その他単剤除草剤)	61	1	
	" (合剤除草剤 パラコート+ジクワット)	75	20	
	" (合剤除草剤 カーバメート系+尿素系)	3		
	" (合剤除草剤 カーバメート系+トリアジン系)	7		
	" (合剤除草剤 カーバメート系+その他)	7		
	" (合剤除草剤 尿素系+トリアジン系)	6		
	" (合剤除草剤 尿素系+2,4-D/2,4,5-T)	12		
	" (合剤除草剤 尿素系+その他)	13	2	
	" (合剤除草剤 トリアジン系+2,4-D/2,4,5-T)	1		
	" (合剤除草剤 2,4-D/2,4,5-T+その他)	1		
	" (合剤除草剤 その他のフェノキシ剤+その他)	5		
	" (その他の合剤除草剤)	108		
	殺虫・殺菌剤	33		
	殺鼠剤	39		
	肥料	15		
	忌避剤・展着剤	61	2	
	合計	1372	70	
	5. 自然毒	きのこ(イボテン酸、コブリン、シクロペプチド、ムスカリン)	30	1
		" (胃腸刺激物)	60	
		" (幻覚物)	71	
		" (無毒)	8	
" (その他の有毒キノコ)		52		
植物(アミグダリン、コルヒチン、ソラニン、胃腸刺激性、強心配糖体、幻覚作用)		88	4	
" (抗コリン作用植物)		41		
" (興奮作用、シュウ酸塩・毒性アルブミン含有、皮膚炎発症、無毒)		110		
" (ヒガンバナ科)		33		
" (バイケイソウ類)		59		
" (その他)		38		
咬刺傷(オコゼ・ゴンズイ)		104		
" (クラゲ・その他)		8		
" (ハチ・その他昆虫)		55		
" (ヘビ・その他)		89		
水生動物(貝毒)		40		
" (フグ)		30		
" (その他)		44		
" (不明)		1		
その他の生物		5		
合計		966	5	

表1-3 JPIC急性中毒症例の収集総症例数および血中濃度分析症例数

カテゴリー名	分類名	総症例数	血中濃度 分析症例数
6. 工業用品	化学薬品(アルカリ)	73	
	" (酸)	174	1
	" (その他)	285	2
	ガス(CO、Cl ₂ 、プロパン)	98	6
	" (その他)	183	3
	金属	134	28
	建築材料	31	
	工業用洗剤	49	
	ガソリン・潤滑油	60	1
	シンナー	80	
	灯油	95	
	その他の炭化水素類	145	2
	アルコール類	20	1
	自動車用品	41	3
	写真用品・接着剤	28	
	染料・塗料	53	1
	フューム・その他の工業用品	119	2
合計	1668	50	
7. 食品・その他	催涙剤	49	
	食品	110	11
	水泳・水槽用品・スポーツ用品・その他	186	4
	合計	345	15
総合計		12762	521

表2-1 血中濃度が分析された化学物質一覧

化学物質名	のべ症例数	化学物質を含む主な製品の分類カテゴリー
1 アセトアミノフェン	106	医薬品
2 テオフィリン	37	医薬品
3 パラコート	35	農薬(除草剤)
4 サリチル酸(アスピリン)	29	医薬品
5 フェノバルビタール	28	医薬品
6 カルバマゼピン	17	医薬品
7 エタノール	16	家庭用品(化粧品、洗浄剤)、工業用品、食品
8 銅	15	工業用品、農薬(殺菌剤)、医薬品
9 フェニトイン	14	医薬品
10 水銀	13	工業用品、家庭用品(体温計)
11 リチウム	12	医薬品
12 バルプロ酸	11	医薬品
13 グルホシネート	9	農薬(除草剤)
14 鉛	9	工業用品、家庭用品(スポーツ用品)
15 スミチオン	8	農薬(殺虫剤)、家庭用品(殺虫剤)
16 ブロムワレリル尿素	8	医薬品
17 アルミニウム	7	医薬品
18 一酸化炭素(ヘモグロビン)	6	工業用品
19 ジゴシン	6	医薬品
20 ニトラゼパム	6	医薬品
21 ホウ酸	6	家庭用品(殺虫剤)、医薬品
22 クロム	5	工業用品
23 クロルプロマジン	5	医薬品
24 ハロペリドール	5	医薬品
25 メタノール	5	工業用品
26 亜鉛	4	工業用品
27 アフロクアロン	4	医薬品
28 エチレングリコール	4	工業用品、家庭用品(保冷剤)
29 カフェイン	4	医薬品、食品
30 クロナゼパム	4	医薬品
31 ヒ素	4	工業用品
32 ビタミンA	4	医薬品
33 ポリオワクチン	4	医薬品
34 マグネシウム	4	医薬品、食品
35 DCPA	3	農薬(除草剤)
36 ジアゼパム	3	医薬品
37 ソニサミド	3	医薬品
38 鉄	3	工業用品、家庭用品(保温剤)、医薬品
39 ナトリウム	3	食品
40 ペントバルビタール	3	医薬品
41 レボチロキシシンナトリウム	3	医薬品
42 アミトリプチリン	2	医薬品
43 アムロジピン	2	医薬品
44 カドミウム	2	家庭用品(美術工芸品)
45 サルブタモール	2	医薬品
46 ジクワット	2	農薬(除草剤)
47 ソピクロン	2	医薬品
48 タリウム	2	工業用品
49 トリカプト	2	植物
50 ニコチン	2	家庭用品(タバコ)
51 ネオフィリン	2	医薬品
52 ノルトリプチリン	2	医薬品
53 ビタミンD	2	医薬品
54 ピルジカイニド	2	医薬品
55 マラソン	2	農薬(殺虫剤)
56 メフェナム酸	2	医薬品
57 ヨード	2	医薬品
58 リドカイン	2	医薬品
59 レボメプロマジン	2	医薬品
60 ロキソプロフェンナトリウム	2	医薬品
61 CYAP	1	農薬(殺虫剤)
62 DMTP	1	農薬(殺虫剤)
63 NAC	1	農薬(除草剤)

表2-2 血中濃度が分析された化学物質一覧

化学物質名	のべ症例数	化学物質を含む主な製品の分類カテゴリー
64 アセトン	1	家庭用品(化粧品)
65 アブラゾラム	1	医薬品
66 アマニチン	1	きのこ
67 アミカシン硫酸	1	医薬品
68 アモキサピン	1	医薬品
69 アモバルビタール	1	医薬品
70 アルドラーゼ	1	医薬品
71 アロテック	1	医薬品
72 イダルピシン	1	医薬品
73 イミダクロプリド	1	農薬(殺虫剤)
74 イミプラミン塩酸	1	医薬品
75 エバスチン	1	医薬品
76 ガソリン	1	工業用品
77 カルシウム	1	食品
78 キニジン	1	医薬品
79 ギンナン	1	植物
80 グリベンクラミド	1	医薬品
81 クレアチン	1	医薬品
82 クレゾール	1	医薬品
83 クロル	1	食品
84 クロルフェナピル	1	農薬(殺虫剤)
85 コルヒチン	1	植物
86 酢酸エチル	1	家庭用品(化粧品)
87 シアン化合物	1	工業用品
88 ジクロフェナク	1	医薬品
89 ジスチグミン臭化	1	医薬品
90 ジソピラミド	1	医薬品
91 ジフェンヒドラミン	1	医薬品
92 ジプロフィリン	1	医薬品
93 シマジン	1	農薬(除草剤)
94 ジルコニウム	1	工業用品
95 スリンダク	1	医薬品
96 ダイアジノン	1	農薬(殺虫剤)、家庭用品(殺虫剤)
97 ダイフィリン	1	医薬品
98 チオリダジン	1	医薬品
99 ドネペジル塩酸	1	医薬品
100 トリクロロエタン	1	工業用品
101 トリクロロエチレン	1	工業用品
102 トルペリゾン塩酸	1	医薬品
103 ニフェジピン	1	医薬品
104 パラジクロロベンゼン	1	家庭用品(防虫剤)
105 ハロキサゾラム	1	医薬品
106 パロキセチン塩酸	1	医薬品
107 ビタミンB6	1	医薬品
108 ビタミンE	1	医薬品
109 ファモチジン	1	医薬品
110 フッ化水素	1	工業用品
111 フッ素	1	工業用品
112 ブホルミン塩酸	1	医薬品
113 フルニトラゼパム	1	医薬品
114 プロプラノロール	1	医薬品
115 プロベリシアジン	1	医薬品
116 プロマゼパム	1	医薬品
117 プロムベリドール	1	医薬品
118 プロメタジン	1	医薬品
119 ホルムアルデヒド	1	医薬品
120 マンガン	1	家庭用品(乾電池)
121 メソミル	1	農薬(殺虫剤)
122 メチルエチルケトン	1	家庭用品(化粧品)
123 メチルエチルケトンパーオキサイド	1	工業用品
124 メチルドパ	1	医薬品
125 メトクロプラミド	1	医薬品
126 モンテルカスト	1	医薬品
127 リスベリドン	1	医薬品

ヒト症例情報データベース 症例入力サブシステム 中毒情報センター内部用入力ガイド

・医師によって記入された急性中毒症例調査用紙に従い、全項目を入力します。
欠損事項など、入力困難な項目は空欄のままとします。

・漢字・ひらがな・カタカナは全角で、英数字・記号は半角で入力してください。

・このガイドでは、入力項目・入力方式・入力ボタンを次の方法で表示しています。

入力項目 : 白色のボックス内にチェックもしくはテキスト入力します。

カーソルがあるボックスは黄色に変わります。

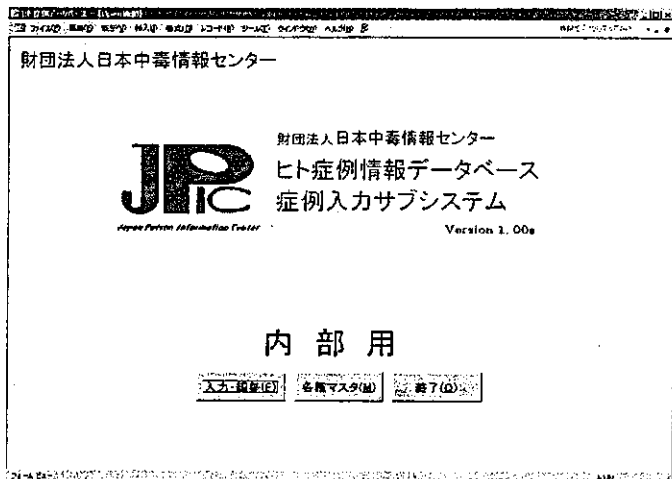
項目によっては、入力結果が水色のボックス内に自動表示されます。

入力方式 : 数値入力、テキスト入力、チェックボックスをチェック、プルダウンメニューから選択、リストボックスから選択、のいずれかの方法で入力します。

入力ボタン : ボタンをクリックするか、ctrl+(カッコ内のキー)で動作します。

入力方法

1. hitoXpV1.00.mdbを開くと、
タイトル画面が立ち上がります。

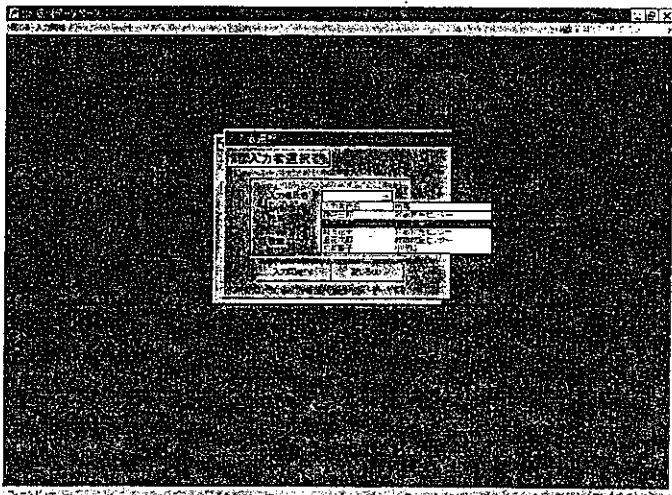


2. **入力・編集** ボタンをクリックすると、
入力者選択画面が開きます。

入力者氏名 プルダウンメニューから
選択してください。
(なければ管理編の方法
で登録してください。)

所属 登録者の所属部署が
自動表示されます。

役職 登録者の役職が
自動表示されます。



3. **入力開始**ボタンをクリックすると、症例入力画面が開きます。

・画面構成

- ①上: 入力を開始するためのエリアです。

入力モード切替 **新規データ入力** **入力済みデータ編集** いずれかのボタンを選択してください。

デフォルトは**入力済みデータ編集**になっています。

識別検索 入力済みデータ編集の場合、編集すべき症例へ移動するのに使用します。

データ処理 新規データ入力時: **登録** **キャンセル** ボタンのみアクティブです。

入力済みデータ編集時: **症例削除** ボタンのみアクティブです。

データ出力 印刷プレビュー: 該当データについて、確認のための印刷を行います。

テキスト出力: 該当データを CSV 形式でファイル出力します。

終了

作業を終了し、タイトル画面に戻ります。

- ②左下: 症例ごとのエリアです。

入力年月日 自動表示されます。

主治医名 **プルダウンメニュー**から選択してください。

(なければ管理編の方法で登録してください。)

所属 主治医の所属が自動表示されます。

入力者名 該当データを入力した人の名前が表示されます。画面を開いた際は入力済み編集モードになっているので、表示されたデータを入力した人の名前になります。新規データ入力モードにすると、入力者選択で選択した入力者氏名が反映されます。

入力表示切替 右下の入力エリアの表示項目を切り替えるためのボタンです。

③ 右中:症例ごとに識別, 性別, 年齢, 申告物質が入力内容にしたがって自動表示されます。

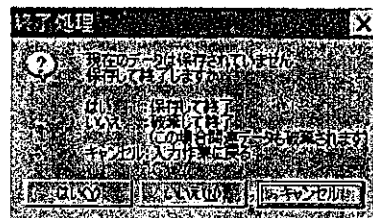
④ 右下:症例レコードの詳細入力エリアです。

左下の入力切替ボタンにより、8画面に切り替わります。

4ページ以降で各画面の詳細について説明しますので、指示に従って入力してください。

・新規データ入力

- 1) 入力モード切替 **新規データ入力** ボタンをクリックし、入力を開始します。
- 2) すべての項目について入力が終了した時点で**登録** ボタンをクリックすると、該当症例が保存されます。
- 3) つづけて別の症例を入力できます。
- 4) 作業途中で**終了** ボタンをクリックすると、右の確認画面が開きます。
はい または **いいえ** を選択し、終了します。

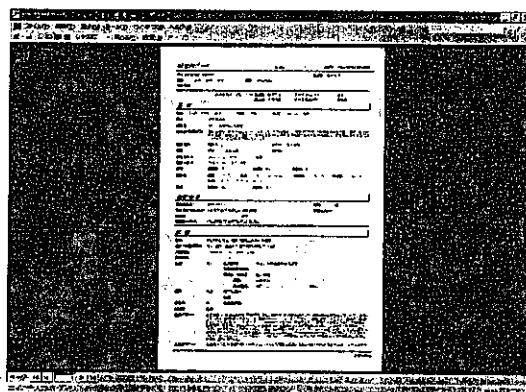


・入力済みデータ編集

- 1) 入力モード切替が**入力済みデータ編集** であることを確認します。
- 2) 識別検索で、編集すべき症例の識別を入力し**検索** ボタンを押すと、その症例に移動します。
- 3) 修正は、新規入力時と同じ方法で行なってください。
- 4) 入力した症例の全項目を削除するときは、データ処理の**症例削除** ボタンを使用してください。
- 5) 別の症例に移動するか、**終了** ボタンをクリックすると、データが上書き保存されます。(確認画面は開きません。)

・印刷

- 1) 入力モード切替が**入力済みデータ編集** であることを確認します。
- 2) **印刷プレビュー** ボタンを押すと、レポートが表示されます。
入力内容の確認等を行うことができます。
- 3) 印刷ボタンで印刷できます。



・テキスト出力

- 1) 入力モード切替が**入力済みデータ編集** であることを確認します。
- 2) **テキスト出力** ボタンを押すと、右の確認画面が開きます。
- 3) **OK** を押すと、使用中のコンピュータの C ディスクに、
8種の CSV ファイルが作成されます。



4. すべての作業が終了したら、**終了** **終了** でデータベースを閉じてください。

画面詳細－基本

The screenshot shows a web-based form for reporting poisoning cases. The form is titled '毒物情報センター' (Poison Information Center). It includes a header with the center's name and a navigation menu on the left with options like '基本情報' (Basic Information), '物質・経路' (Substance/Route), '症状' (Symptoms), '臨床検査' (Clinical Examination), 'その他の検査' (Other Examinations), '治療' (Treatment), and '化学物質分析' (Chemical Analysis). The main form area contains several sections: '患者情報' (Patient Information) with fields for name, address, date of birth, sex, and occupation; '発症情報' (Onset Information) with fields for onset date, time, and symptoms; and '検査情報' (Examination Information) with fields for laboratory tests and results. The form is designed for data entry and includes various dropdown menus and checkboxes.

報告医療機関情報、患者のバックグラウンドおよび中毒事故に関する情報を入力します。

症例番号 中毒情報センター内の整理番号をテキスト入力してください。

識別 イニシャル、生年月日など、患者の識別が可能な範囲でテキスト入力してください。

施設名 報告医療機関の名称をテキスト入力してください。

医師名 報告医師名をテキスト入力してください。

所属 報告医師の所属をテキスト入力してください。

役職 報告医師の役職をテキスト入力してください。

年齢 数値入力し、その確実性に関し確定・推定・歳代・不明の中から選択・チェックしてください。

20歳代としかわからない場合は、20歳と数値入力し、歳代をチェックしてください。

性別 男性・女性・不明のいずれかにチェックしてください。

体重 数値入力し、その確実性に関し、確定・推定・不明の中から選択・チェックしてください。

職業 患者の職業に関して、下記の定義を参考にプルダウンメニューから選択してください。

分類	定義	例
無職	現在、賃金労働に従事していない人	失業者、定年退職者、乳児
家事専従者	家事、子供及び配偶者の世話をしている女性または男性	主婦、主夫

分類	定義	例
農業従事者	農作物栽培、家畜飼育の仕事を行う人	米栽培農家、花き栽培農家
製造業従事者	大規模あるいは小規模で物質の抽出、加工及び製造作業に従事している人	工場従業員、研究所員
家内工業従事者	自宅において、殆どは独自の機器を用いて小規模製造に従事している人	内職従事者、従業員数名の鉄工所や自動車整備工場の従業員
販売業従事者	品物やサービスの売買を行う人	販売員、銀行員
サービス業従事者	他人へサービス提供することを仕事にしている人	医療関係者、救急隊、警察官、鉄道関係者、運送業者、教師、事務員
学生	施設で教育課程を受けている人	小学生、高校生、大学生、大学院生
その他	上記の分類に含まれない作業	漁業従事者
不明	職業に関する情報が入手できない場合	

既往歴有無 無し・有り・不明のいずれかにチェックしてください。

既往歴内容 既往症がある場合、できる限り詳細にテキスト入力してください。

薬剤服用歴がわかれば、薬剤名、量、頻度、服薬期間等に関してもあわせて入力してください。

喫煙歴および飲酒歴についても入力してください。

業務上の事故の場合は、該当業務従事歴・使用薬剤名を判明した範囲で入力してください。

現病歴・曝露状況 中毒事故に関する状況等をできる限り詳細にテキスト入力してください。

発生場所 中毒事故の発生場所に関して、下記の定義を参考にプルダウンメニューから選択してください。さらに詳細がわかれば、サブメニューから選択してください。

大分類	定義	例
居住内	住居として使用されている場所。屋内だけでなく、庭、ベランダ、駐車場も該当。高齢者施設は除く。	自宅、自宅ベランダ、祖父宅庭、知人宅
仕事場	仕事として作業を行うための場所。農耕地(生産するための緑地)を含む。患者の職場であるとは限らない。	化学プラント、製鉄所、自動車修理工場、パン製造所、田、畑、ビニールハウス、企業研究所、事務所
医療施設	医療機関内全て。屋外も該当。	病院、診療所、救急車
高齢者施設	高齢者が生活している、あるいは介護等をうけている集団施設全て。屋外含む。	特別養護老人ホーム、ケアハウス、老人グループホーム、老人保健施設
学校・幼稚園・保育所	教育、学習、指導のための場所。校庭などの屋外も該当。	幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校、大学、大学院、専門学校
屋内の公共スペース	不特定多数の人が集まる可能性のある、公共の建造物。学校は除く。	デパート、薬局、レストラン、図書館、公民館、ホール、スポーツクラブ、空港、駅、バスターミナル、役所、銀行、ホテル、屋内駐車場、教会
車内	人々または物品の輸送に用いられる、輸送機関の車内。救急車を除く。	乗用車、トラック、バス、貨物列車、旅客列車、飛行機、ヘリコプター、グライダー、気球、タンカー、フェリー、プレジャーボート
屋外	上記以外の屋外、遮蔽のない開放的空間。	公園、景勝地、川、海
その他	上記以外の場所。	自衛隊敷地内、刑務所内
不明	場所が不明な場合	

場所コメント 中毒事故の発生場所に関して、上記選択肢よりも詳細な情報があれば、上の例を参考にテキスト入力してください。

状況 中毒事故の発生状況に関して、下記の定義を参考にプルダウンメニューから選択してください。

さらに詳細がわかれば、サブメニューから選択してください。

大分類	中分類	定義	例
不慮	労災	患者の職場(屋外、屋内等問われない)における、業務上の作業中の事故。 農業での農薬散布の場合。 (二次災害はここに入れる)	<ul style="list-style-type: none"> ・会社で実験中、手袋をしていなかったためにフッ酸が手に付着した ・清掃員が会社のトイレを掃除中、洗剤を吸ってしまった ・作業員が倉庫で荷積み中荷崩れ、中身が漏れ出して吸ってしまった ・農家の人が農薬散布中、風向きが変わり、少量吸ってしまった ・高速道でタンクローリーが横転、運転者がガスを吸った ・工場から有毒ガスが漏れ出し、従業員が吸入した ・工場から有毒ガスが漏れ出し、周辺警備の警察官が吸入した ・民家が火事になり、消防士が消火作業中に有毒ガスを吸入した ・看護師が中毒患者の治療中、二次汚染を受けた
不慮	医療上の事故	医療従事者または一般の人が治療目的で投与した結果発生した事故全て。 医薬品の誤った量、正しくない投与経路、誤った人への投与、誤った物質の投与等の場合が含まれる。	<ul style="list-style-type: none"> ・病院内で別の患者の薬を間違えて投与した ・病院内で皮下注用製剤を静脈注射した ・薬局でラベルの貼り間違い、薬の入れ間違い ・家庭で赤ん坊に小学生の兄の薬を飲ませてしまった ・家庭で薬と間違えてお酒を飲ませた ・家庭で目薬をさすつもりが誤って近くにあって耳垢軟化剤を使用した ・家庭で母親が子供に飲ませたのに、父親がもう一度飲ませた ・保育所で、先生が預かっている子供に薬の量を間違えて飲ませた
	誤使用	あくまでも故意ではないが、判断能力のある人が誤使用をした場合(使用法をよく読んでいない、誤解している等、本来の使用方法であれば防ぐことのできた事故)。 有毒または無毒植物を誤認した場合も含む。治療目的の事故は含まない。	<ul style="list-style-type: none"> ・湯飲みに入っていた漂白剤希釈液を夫が知らずに飲んだ ・湯飲みに入っていた漂白剤希釈液を忘れて自分で飲んだ ・ペットボトル入りの自家製化粧水をドリンクと間違えて飲んだ ・レトルトのご飯に入っていた脱酸素剤をゴマと誤ってかけて食べた ・職場で、洗浄中のポットに入っていたお湯を使ってお茶を入れた ・サイホンの原理を利用しガソリン等を誤飲した ・不注意で漂白剤とアンモニアを混ぜ、有毒なガスが発生した ・風呂掃除していたら、カビとり剤を1本使い切っていた ・換気をせずに、カビとり剤を使った ・車庫の中で車のエンジンをかけっぱなしにしてしまった ・ゴボウと間違えてチョウセンアサガオの根を食べた
	その他の不慮の事故	労災、医療上の事故、誤使用以外の不慮と判っている事故。 小児、痴呆の患者、知的障害者等の誤飲事故はほとんどの場合、ここに入れる。	<ul style="list-style-type: none"> ・湯飲みに入っていた漂白剤希釈液を子供がいたずらしてなめた ・子供が勝手にシロップ剤を2回分飲んでしまっていた ・水銀体温計を割ってしまい、少量飲み込んだ ・家庭菜園で農薬散布中、風向きが変わり、少量吸ってしまった ・高速道でタンクローリーが横転、近隣住民がガスを吸った ・火事のところを通りかかり、煙を吸った ・水道水への混入
	不慮不明	不慮と判っているが、状況が不明の場合。	
故意	自殺企図	自殺を目的とした場合。死ぬ意志がない場合(狂言、自傷行為等)も含む。	・夫婦喧嘩の末、腹いせに
	医療上の事故	精神的効果を得る以外の目的で、薬効を期待して過量に使用された(使用した)場合。	・良く効くと思って、痛み止めをわざわざ倍量飲んだ
	誤使用	精神的効果を得る以外の目的で、故意に不適切、正しくない使用をした場合。	・故意に混合させたり、殺虫剤を明らかに不適切に使用した
	乱用	精神的効果を得る目的で、故意に不適切・正しくない使用をした場合。シンナーを故意に吸入した場合。	<ul style="list-style-type: none"> ・シンナーを故意に吸入した ・ガスパン遊びをした ・マジックマッシュルーム、5-Meo-DIPT等の幻覚剤、覚せい剤を故意に使用した
	悪意による事故	他人から悪意をもって使用された場合や、被害を加えられた場合。 テロ・他殺・いじめを含む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ある団体が駅前でまいたホスゲンを吸った ・殺害目的の異物混入 ・殺害目的以外の異物混入 ・催涙ガスをかけられた
	故意その他	故意であるが、自殺企図、医療上の事故、誤使用、乱用、悪意以外の場合。	・なんとなく
	故意不明	故意と判っているが、状況が不明の場合。	・統合失調症患者で、問診が取れない状況である

大分類	中分類	定義	例
その他	その他	不慮、故意以外の場合。	
不明	不明	不慮か故意かを含め、状況が不明の場合。	

状況コメント 中毒事故の発生状況に関して、上記選択肢よりも詳細な情報があれば、上の例を参考に
テキスト入力してください。

発生年月日 西暦で数値入力してください。

時刻 24 時間表記で数値入力し、午前・午後がわかればチェックしてください。
また、その確実性に関し、確定・推定・不明の中から選択・チェックしてください。

受診年月日 西暦で数値入力してください。

時刻 24 時間表記で数値入力し、午前・午後がわかればチェックしてください。

症状 来院前については、無し・有り・不明のいずれかにチェックしてください。
来院時、来院後については、無し・有りのいずれかにチェックしてください。

初診時バイタル 初診時の体温、血圧、脈拍数、呼吸数を数値入力してください。
意識レベルに関しては、グラスゴーコーマスケール(GCS)で数値入力すると、横に合計が
自動表示されます。

処置 来院前については、無し・有り・不明のいずれかにチェックしてください。
来院後については、無し・有りのいずれかにチェックしてください。

* 場所および状況の例

- ・会社で実験中、手袋をしていなかったためにフッ酸が従業員の手に付着した → 製造業従事者／仕事場／労災
- ・学校で実験中、手袋をしていなかったためにフッ酸が教師の手に付着した → サービス業従事者／学校／労災
- ・学校で実験中、手袋をしていなかったためにフッ酸が生徒の手に付着した → 学生／学校／その他の誤使用
- ・畑に農薬散布中、風向きが変わり、農業従事者が少量吸ってしまった → 農業従事者／仕事場／労災
- ・畑に農薬散布中、風向きが変わり、隣家の主婦が少量吸ってしまった → 家事専従者／仕事場／不慮一般
- ・工場から有毒ガスが漏れ出し、従業員が吸入した → 製造業従事者／仕事場／労災
- ・工場から有毒ガスが漏れ出し、周辺警備の警察官が吸入した → サービス業従事者／仕事場／労災
- ・民家が火事になり、消防士が消火作業中に有毒ガスを吸入した → サービス業従事者／居住内／労災
- ・民家が火事になり、赤ん坊が有毒ガスを吸入した → 無職／居住内／不慮一般
- ・病院で中毒患者の治療中、看護師が二次汚染を受けた → サービス業従事者／医療施設／労災
- ・高速道でタンクローリーが横転、運転者がガスを吸った → サービス業従事者／車内／労災

画面詳細—物質・経路

- ・中毒の原因物質とその曝露経路を入力します。複数物質ある場合は、物質ごとに入力できます。
- ・画面は大きく3つに分かれています。

左: 申告物質入力フォーム

- ・新規入力ワクは左端に※が表示されています。入力を開始した時点で△表示に変わり、その下に※のついた新しい入力ワクが表示されます。
- ・選択されている申告物質は左端に△が表示され、経路の上にも申告物質名が表示されます。
- ・複数物質を入力した場合は、縦に並べて表示されますので、画面をスクロールしてください。
- ・削除する場合は、削除する物質名を選択した上で右上にある**物質削除**ボタンを使用してください。

中: 経路選択リストボックス

右: 物質ごとに入力した経路の明細

- ・複数経路を入力した場合は、縦に並べて表示されますので、画面をスクロールしてください。
- ・削除する場合は、削除する経路を選択した上で右上にある**経路削除**ボタンを使用してください。

申告物質名 できるかぎり商品名で、むずかしければ一般名で、具体的にテキスト入力してください。

物質コメント 物質の用途、含有成分などがわかれば、具体的にテキスト入力してください。

曝露量 曝露量に関して、 μg 、 mg 、 g 、 kg 、 mL 、 L のいずれかの単位で表記できる場合は、対応する量を数値入力してください。幅表示も可能です。例)50~100

- 単位 μg 、 mg 、 g 、 kg 、 mL 、 L のいずれかをプルダウンメニューから選択し、その確実性に関し、確定・推定・不明の中から選択・チェックしてください。
- 量コメント 曝露量に関して上記単位に当てはまらない場合は、単位と合わせてテキスト入力してください。
例) 30錠、1コ、1/2本、3cm、なめた程度、一口、一瞬
- 経路 リストボックス上で選択してください。
選択した項目は白黒反転しますので、確認ののち、ダブルクリックするか、ボタンを押してください。
複数経路入力が可能です。
例) 顔に浴びて眼と口に入った場合→経口、眼
- 経路コメント 経路に関して、特記すべきことがあれば、テキスト入力してください。

画面詳細一転帰

ヒト症例データベース [個人情報]

メニュー: ファイル, 編集, 表示, 入力, 書き出し, レポート, ツール, ヘルプ

施設名: 財団法人日本中毒情報センター

新規データ入力, 入力済みデータ検索, 検索, 印刷, 印刷7/11, 印刷出力, 終了

症例番号: 2003/11/15

性別: 男性, 年齢: 67, 歳: 7, 月: 15

申告物質: アセトアミノフェン過量摂取による急性肝障害

症状との因果関係: 有り, 無し, 不明

入院: 有り, 無し, 不明

外来通院: 有り, 無し, 不明

転院: 有り, 無し, 不明

転院先病院名: テキスト入力してください。

転院先 TEL: テキスト入力してください。

転院目的: 転院目的に於いて、重症管理、略治フォロー、中毒以外の基礎疾患の治療、その他、不明のいずれかをプルダウンメニューから選択してください。

転院目的その他内容: その他の場合はテキスト入力してください。

症例概要: 自覚正しく、頭痛前20分(アセトアミノフェン32g含有)を7錠服用した。翌日昏睡状態で倒れているのが発見された。摂取9時間後の発症時には、意識レベルII、GOT64IU/L、GPT29IU/L、LDH650IU/Lであった。血圧低下、過呼吸、嘔吐があった。また大量輸液、強制利尿、昇圧剤の投与を行った。血液透析(3h)を施行したところ、意識が回復し、以降連日4日入院した。さらに、N-アセチルシステイン(40mL×18回)および強力ネオミノファーゲン(2AX20回)の投与を行った。摂取25時間後のアセトアミノフェン血中濃度は、64.6μg/mL(Rumack-Matthewのノモグラム上で中毒域以上)であった。2病日にはGOT650IU/L、GPT194IU/L、LDH9034IU/Lと検査値が上昇したが、その後徐々に全身状態は改善し30病日に元治退院した。

主治医コメント: 本症例は入院時各種状態でアセトアミノフェン致死量を超過する量を内服したため予後が非常にあやふやな状態であったが同日透析を施行したところ意識が回復し以降連日4日間血液透析を施行し、他に大量輸液、利尿剤、昇圧剤、吸着剤(活性炭)、下剤(マグネシウム)の投与を施行したところ全身状態は徐々に改善し急性肝障害の重要性を痛感した。また、アセトアミノフェンによる薬物中毒の劇症肝炎の発症が懸念されるとの報告例もあり肝臓腫瘍およびアセチルシステインの大量内服により肝機能障害は軽度にとどまった。重症肝炎発症後はアセチルシステイン内服効果があるかどうかおよび同様の劇症肝炎発症の有効性のデータ等につき即一報していただければ幸いです。

患者の転帰に関する情報を入力します。

診断 診断に関して、テキスト入力してください。

症状との因果関係 物質と症状との因果関係に関し、無し・有り・不明のいずれかにチェックしてください。

症状との因果関係内容 物質と症状との因果関係の根拠など、テキスト入力してください。

入院 無し・有り・不明のいずれかにチェックしてください。

入院期間 入院日と退院日を西暦で数値入力してください。

外来通院 無し・有り・不明のいずれかにチェックしてください。

通院期間 退院後のフォローを含め、通院開始年月日と終了年月日を西暦で数値入力してください。

転院 無し・有り・不明のいずれかにチェックしてください。

転院目的 転院目的に関して、重症管理、略治フォロー、中毒以外の基礎疾患の治療、その他、不明のいずれかをプルダウンメニューから選択してください。

転院目的その他内容 その他の場合はテキスト入力してください。

転院先病院名 テキスト入力してください。

転院先 TEL テキスト入力してください。

転院先所属 テキスト入力してください。

転院先担当医名 わかれば、テキスト入力してください。

転帰 完治・略治・死亡・不明のいずれかにチェックしてください。

死亡年月日 死亡の場合、西暦で数値入力してください。

死亡時刻 死亡の場合、24 時間表記で数値入力してください。

死因 直接の死因をテキスト入力してください。

後遺症 無し・有り・不明のいずれかにチェックしてください。

後遺症内容 後遺症の内容に関して、テキスト入力してください。

重症度 無症状・軽症・中等症・重症・死亡のいずれかにチェックしてください。

PSS IPCS-INTOX の Poisoning Severity Score に従い、チェックしてください。

症例サマリー 出現症状、異常検査値、治療等に関して、特に時間経過および障害の程度がわかるように
テキスト入力してください。

主治医コメント 中毒原因物質と症状の因果関係、事故発生の背景等などに関する医師のコメントを
テキスト入力してください。

画面詳細－症状

・複数症状入力が可能ですので、出現した全ての症状について、出現期間とともに入力してください。

・画面は大きく2つに分かれています。

左: 症状選択リストボックス(器官別、登録症状、症状・徴候)

右: 入力した症状の明細表示

- ・症状を複数入力した場合は、縦に並べて表示されますので、画面をスクロールしてください。
- ・削除する場合は、削除する症状を選択した上で右上にある「症状削除」ボタンを使用してください。

症状 器官別、登録症状、症状・徴候の順に、リストボックス上で選択してください。選択した項目は白黒反転しますので、確認ののち、ダブルクリックするか、 ボタンを押してください。右側、症状明細の水色部分に、選択した症状の器官別、登録症状、症状・徴候が自動表示されます。

出現年月日 西暦で数値入力してください。

時刻 24 時間表記で数値入力し、その確実性に関し、確定・推定・不明の中から選択・チェックしてください。

消失年月日 西暦で数値入力してください。

時刻 24 時間表記で数値入力し、その確実性に関し、確定・推定・不明の中から選択・チェックしてください。

ください。

特記事項 症状に関して、特記すべきことがあれば、テキスト入力してください。
特に、意識レベル、体温、呼吸数、脈拍、血圧等、異常を客観的に表記できる値がある場合は、
具体的な数値を入力してください。

* リストボックスにない症状の場合

器官別、登録症状、症状・徴候ともその他を選択し、その症状の詳細を特記事項にテキスト入力してください。

画面詳細－臨床化学検査

・各種検査値を入力し、異常の有無をチェックします。

複数回検査の入力が可能ですので、試料採取年月日、時刻ごとにまとめて入力してください。

・画面は大きく2つに分かれています。

左: 検査値入力フォーム

- ・試料採取年月日、時刻ごとに入力します。
- ・入力できる検査項目は、固定 27 項目 (RBC~HCO3) + 任意の 10 項目で、縦に並べて表示されていますので、画面をスクロールしてください。
- ・正常(基準)値および単位は、貴施設で管理者が入力した値が表示されています。
- ・入力後、**検査履歴に登録** ボタンを押すと、右側の検査値一覧にデータが追加されます。
- ・修正ボタンを押すと、修正する回数を尋ねてきますので、半角数字で入力してください。
- ・削除する場合は、削除する回数を選択した上で上にある**削除** ボタンを使用してください。

右: 検査値一覧

- ・すでに入力された検査値について、横軸に採取年月日・時刻、縦軸に検査項目をとり、一覧表示したものです。
- ・異常有りにチェックのついた値は、赤色で表示されます。
- ・隠れている検査項目をみる場合には、画面をスクロールしてください。
- ・横軸は時間の経過とともに右から左へ羅列されていますので、隠れている回数をみる場合には、

← → ボタンを使って移動させてください。

検査値 各検査項目ごとに、値を数値入力してください。

異常の有無 各検査項目ごとに無し・有り・不明のいずれかにチェックしてください。

特記事項 各試料採取時刻ごとに特記すべきことがあれば、テキスト入力してください。
(画面を一番下までスクロールすると、表示されます)

*** 任意 10 項目の入力**

検査項目、正常値、単位、検査値の各項目にテキスト入力し、異常の有無をチェックしてください。